

淡路島の *Catocala*

登 日 邦 明

Catocala は大型のヤガの一属であって、コレクターの人気のまともでもある。したがってその分布調査はもちろん、生活史の解明もよく進んでおり、日本からはこれまで28種が知られている。

しかしながら淡路島産のものについては、従来、藤平^{1,2)}や坂口³⁾などの目録中にわずかなから見られるにすぎないので、ここでは筆者が現在までに分布を確認できた本属の5種についてとりあげ、若干の知見についても述べておきたいと思う。

本稿を草するに当たり、日頃より御指導いただく名城大学農学部昆虫学研究室の岡留恒丸助教授・有田豊助手、常に有益なる助言を下さる名古屋市の田中番氏に深謝の意を表す。

なお、本報文中に使用した採集データは1971年までのもので、標本はコシロシタバ (*C. actaea*) を除き、すべて筆者が所蔵する。

淡路島の *Catocala*

1. *Catocala actaea* Butler コシロシタバ

妙見山 lex., 4. VIII. 1952 (H. HORITA)

堀田久氏が妙見山で得た標本を確認した。昼間クヌギ林で得られた由であるが、筆者はまだ採集する機会に恵まれない。

2. *Catocala patala* Felder キシタバ

大町畑 lex., 9. VII. 1967 (K. TOBI)

6月下旬から8月上旬に津名町大町畑、洲本市鮎屋³⁾ 南淡町阿万²⁾ などで得られている。

3. *Catocala kuangtungensis* Mell クロシオキシタバ

常隆寺山 lex., 31. VII. 1967 (K. TOBI)

上記のデータは筆者の前報中⁴⁾ にキシタバ (*C. patala*) として記録したものであるが、本種の誤りであったのでここに訂正して再録しておく。

7月下旬から8月中旬に常隆寺山、大町畑、洲本市中津川などで得られるが、各地に食樹であるウバメガシが自生しているので、個体数はむしろキシタバ (*C. patala*) より多い。

4. *Catocala praegnax esther* Butler コガタキシタバ

大町畑 lex., 15. VI. 1967., lex., 23. VI. 1967., lex., 24. VI. 1967 (K. TOBI).

6月中旬から7月上旬に大町畑、鮎屋³⁾阿万¹⁾などで得られている。

5. *Catocala fulminex xarippe* Butler ワモンキシタバ

下加茂 lex., 14. VI. 1968 (K. TOBI) ; 前平 lex., 14. VI. 1968
(S. KANAOKA)

6月中一下旬に洲本市金平、鮎屋³⁾下加茂で得られているが、洲本市以外からはまだ記録はない。

以上5種のほかに今後見出される可能性のある種としては、まず第1に四国地方でかなり普通に採集されるウスイロキシタバ (*C. intacta*) があげられる。その他、アミメキシタバ (*C. connexa*) やカバフキシタバ (*C. mirifica*) も可能性があろう。

同好諸氏の協力により淡路島産の *Catocala* が今後も引き続き発見・記録されることを切望したい。

引用文献

1. 藤平 明 (1960) 南淡町産主要鱗翅目目録、北阿万小学校科学クラブ冊：1-32.
2. ——— (1962) ————— 補遺 ————— : 1-18.
3. 坂口 操 (1972) 洲本市付近の蛾の記録、PARNASSIUS (8) : 6-10.
4. 登日邦明 (1968) 伊勢ノ森の蛾類、PARNASSIUS (4) : 4-9.

燈火に飛来したヒメハルゼミ

1971年7月に諭鶴羽山頂でヒメハルゼミ *Euterpnosia chibensis* Matsu-mura が再発見されて話題を呼んだが、1972年7月10日に南淡町阿万(通称ショウブ谷)で蛾の灯火採集を行なった際に螢光燈に飛来した1♂を得たので報告する。この地点は諭鶴羽山頂より南西へ約6kmの地点に当るが、同日夕刻には多数の個体の合唱を聞いた。

なお、標本は名城大学農学部昆虫学研究室に保管されている。(登日邦明)

常隆寺山でスジマダラモモブトカミキリを採集

1972年7月7日に常隆寺山山頂の常隆寺境内(標高500m.)で、燈火に飛来したスジマダラモモブトカミキリ *Acanthocinus griseus* Fabricius 1♀を採集した。淡路島から初めて記録されるものである。

なお、標本は名城大学農学部昆虫学研究室に保管されている。(登日邦明)